



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 21号

子どもも一緒に！家族みんなで楽しもう！

幼児と一緒に参加できるイベント

当館では、幼児や小学校低学年のお子様も一緒に参加できるイベントを開催しています。家族みんなでのお弁当持参で参加してみませんか。

★海苔つけ体験、一日まるごとのりのり体験★

生海苔から乾海苔をつくる体験ができます。完成した海苔は持ち帰ることができるので、家でも楽しめます。(日程は催事予定表をご覧ください。)

★絵本の読み聞かせと公園散歩★

季節に合わせた絵本の読み聞かせをします。その後、前の公園でお花や生き物を探します。

日時：毎月第四水曜日
11時～11時30分
対象：幼児とその保護者



★季節飾りと工作遊び★

昔の節句人形や季節の飾りなど飾ります。また、飾りと行事に合わせた工作遊びをします。

対象：どなたでも

*端午の節句「カブトをつくろう」(終了しました)

*七夕「短冊づくり」7月3日(日)

*桃の節句「おひなさまづくり」平成24年2月19日(日)

いずれも、午後1時30分～3時30分(時間内に自由にご参加できます) / 参加費無料 / 申込不要

★ひまわりプロジェクト★

皆で協力して、館の周りにひまわりを咲かせます。

(第一回耕しの巻、第二回種まきの巻は終了)

*第三回「水まきの巻」5月から7月の間、正午から午後3時を除く開館時間

*第四回「種とりの巻」秋ころを予定



展示

●海苔の展示●

一階正面には、大きな海苔の船が展示してあります。また、二階には触ったり体験したりできるコーナーもあります。



●生き物水槽●

カニやヤドカリ、魚などを飼っています。かわいいお友達に会いに来てね。

●絵本コーナー●

季節に合わせて毎月絵本を入れ替えています。誰でも自由に読むことができます。

●昔遊び●

コマや竹トンボ、あやとりなど、昔ながらの遊び道具を用意しています。

館内の施設

■多機能トイレ■

1階の多機能トイレは、おむつ替えや授乳ができます。広いのでバギーと一緒に中に入れます。



■三階展望コーナー■

公園を一望しながら飲食ができるスペースです。人気の場所なので、交替でご利用をお願いします。

周辺の施設

◎大森ふるさとの浜辺公園◎

都内では珍しい砂浜のある公園です。海の生き物を探したり、砂で遊んだり元気なちびっ子には大人気！休日には売店がオープンするので、ソフトクリームや軽食も楽しめますよ。



◎ローラー滑り台◎

23区では最大級のローラー滑り台はいつも大人気。一度滑るとやみつきになります。

◎平和の森公園フィールドアスレチック◎

アスレチックは当館から歩いて徒歩2分。昨年リニューアルされて、楽しさも倍増です。

夏期開館時間延長のお知らせ

6月～8月は、閉館時間が午後7時になります。

Welcome to Omori Nori Museum!!

大森海苔のふるさと館には数多くの外国人の方々を訪れます。また今年4月より大森海苔のふるさと館では日本語のリーフレットに加えて外国語(3ヶ国語)のリーフレットを設置することとなりました。各言語は次のとおりです。①英語 ②中国語 ③韓国語です。

毎年夏になると大田区の友好都市であるアメリカのセラム市から来日する交換学生が来館し日米の友好親善を行なっています。これまでに韓国、台湾、イタリアなどの団体見学の方々やイギリス、フランス、アイルランド、アメリカ、カナダ、エジプト、オーストラリアなど個人の見学者も多く見受けられます。



“Nori”は、おいしくてヘルシーな日本食ブームのひとつとして世界に広まり、“Sushi”や“Miso Soup”など外国人の方々が祖国でも“Nori”を食べる機会が増えて来ていることも大きな要因のひとつだと考えられます。

日本を代表する味“Nori”が、ここ大森から全国に世界に広まった事実を少しでも多くの外国人の方々にも感じてもらい、心のどこかに“Nori”や“Omori Nori Museum”について思い出していただけると大変うれしく思います。(高橋)

海苔のふるさと館への恩返しとして・・・

—元船大工の小島延喜氏より荷足船をご寄贈いただきました—

この度、5月1日にご寄贈いただきました模型船「荷足船」は、当館1階展示室に展示してある海苔船「伊藤丸」を昭和33年に造船した小島延喜氏により、2年半の歳月をかけて製作されました。

小島延喜氏より「荷足船」のお話を伺いました。

『「荷足船」(注1)は羽田の砂利船として往時100艘ぐらいあり、幅3メートル程もあり、明治、大正、昭和のはじめ頃まで使われていました。特に大正12年、関東大震災の復興の際に東京から横浜間で相当活躍した船で、この大きな船では川を遡って行くことはできませんでしたから、平たい川舟に荷を積んで「荷足船」に荷を移し替えて東京から横浜間の港に通いました。港から揚げた荷は当時、クルマがなかったので馬や牛で運びました。戦後までは結構残っていましたが、砂利や砂を採るにしたがい、次第に川底が深くなり砂利や砂が採れなくなり「荷足船」もその姿を消すことになりました。

「船竹」(注2)として造船した2艘(伊藤丸・ちゅうべか)の船を関東で最初の和船文化財登録(注3)をしていただいた恩返しとして、今回「海苔のふるさと館」へ和船模型の「荷足船」を新たに製作し寄

贈させていただきました。』

以上のお話を小島延喜氏より直接伺い、大変心温まる和船模型「荷足船」をご寄贈いただきました。是非、多くの皆様にご覧頂きたいと思えます。

(高橋)

※(注1) 荷足船：多摩川河口の羽田を拠点としていた回漕船です。江戸時代には多摩川を筏で下ってきた材木を積み、明治時代には多摩川の砂利や砂を東京・横浜方面へ運搬しました。この「荷足船」が「海苔船」の前身となります。

(注2) 船竹：小島延喜氏のご兄弟とお父様が営んでいた船大工の屋号。

(注3) 和船文化財登録：平成11年、国の重要有形民俗文化財「大森及び周辺地域の海苔生産用具」として2艘の船が追加登録されました。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」21号

平成23年6月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347